

人生の大切な日を飾る  
「博多水引」。その思いを  
手仕事に込めて。

博多駅から歩いて約15分。町家風の民家が並ぶ住宅街の一角に、博多水引職人・長澤宏昭さんの工房兼店舗「ながさわ結納店」があります。店内には、鶴や亀、宝舟など紅白や金銀の水引で編み上げた結納品がところ狭しと飾られています。そのどれもが細い水引だけで作られたとは思えないほど華やかで表情豊かです。

長澤さんが水引を作り始めたのは約40年前。茶舗を営んでいた際、水引付の結納茶の依頼を受け、我流で水引を作ってみたのがきっかけだった。



たそうです。「どの職人の世界も師匠に学ぶのが通例ですが、私の場合は完全に独学。完成品の水引を解いて編んで

博多の  
匠を  
訪ねて

# 博多水引

想いを結ぶ。伝統をつなぐ。

博多には、手から手へ受け継がれてきた伝統工芸品が数多くあります。島本も博多の食文化を継承する「食の職人」として、伝統工芸の職人の方から多くのことを学ばせていただいております。そこで、今回は博多の結納に欠かせない「博多水引」の職人、長澤宏昭さんと長女・宏美さん取材しました。

を繰り返して、技を磨きました。今でもどうすればもっと美しい作品が作れるか、試行錯誤の連続です」と長澤さん。妥協することなく、ひたむきにもものづくりに取り組む姿勢は作品の美しさに表れています。特に、色調の美しさは長澤さんの作品の魅力であり、「一番のこだわり。美しい博多水引で門出をお祝いしたい」という心意気も伝わります。「結納という人生の大事な節目に使っていただく水引は、日本人が長きに渡っ

て受け継いできた風習や文化が息づいています。昨今は、結納される人が減っていますが、人とのつながりが大切な時代だからこそ、日本の伝統的な習慣である結納を見直してもらえたら嬉しいです。

日本ならではの  
心の文化を守りたい。

結納品をはじめ、贈答品の装飾にも用いられる水引。その起源は飛鳥時代にまで遡ります。「随へ渡った小野妹子が帰国する時、随からの献上物に掛けられていた紅白の麻ひもが水引の始まりなんです。この麻ひもは航海の安全祈願と真心のこもった贈り物であることを表していたそうです。心と心、人と人を結ぶ文化がそれほど古くからあったとは驚きですよ」と話すのは、長澤さんご長女・長澤宏美さん。グラフィック・デザイナーとして活躍した経験とセンスを生かし、博多水引を現代風にアレンジ。地元の酒販店とのコラボレーションなど、博多水引の伝統や文化を広める活動に



**プロフィール**  
 (左)長澤 宏昭さん  
 1940年、福岡市博多区生まれ。30歳の時に水引業界に入り、全国結納組合連合会の役員を十数年務めた。福岡市技能功労賞(平成17年)をはじめ、伝統工芸に関わる賞を数多く受賞。  
 (右)長澤 宏美さん  
 水引デザイナー。水引をモチーフにした食卓を華やかに飾るアイテムや贈り物に添える水引など新しい水引作品も多数手がける。各所での講演活動も行っている。

2011年、博多の郷土文化の継承や発展に貢献した団体、個人に贈られる「博多町人文化勲章」を、宏昭さんが受賞されました。



尽力されています。最近では、ワインなど洋酒の贈答にもびつたりなスタイリッシュな水引が話題に。こうした宏美さ



和モダンなデザインと色合いが美しい「寄袋き」。

んの活動をきっかけに、日本の贈答文化を象徴する工芸品として、「博多水引」が海外からも注目を集めています。「日本だけでなく、海外の方にも博多水引を美しいと感じていただけるのは光栄なこと。博多水引を通して、日本の真心を贈る文化を伝えていき

いですね。結納などの日本の風習を若い方に継承していく力添えになればと思っていま

## 伝統の技を新たな表現で魅せる「博多水引」

<p><b>飾り水引</b></p> <p>のし袋に引っかけただけで華やかで洗練された印象になる「飾り水引」。</p>	<p><b>ボトルメンダント</b></p> <p>梅をあしらったデザインで、ワインやシャンパンなどのボトルに掛けるだけで素敵な贈答品に。</p>	<p><b>お正月のしめ縄</b></p> <p>すべて水引で作られたオリジナルのしめ縄飾り。博多水引ならではの鮮やかな色彩が光る作品です。</p>
-------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------